



平成26年8月20日

各 位

会 社 名 株式会社アダストリアホールディングス
 代 表 者 代表取締役社長 遠藤 洋一
 (コード番号 2685 東証第一部)
 問合せ先 経営戦略部長 新谷 亮
 (TEL: 03-6895-6000)

平成27年2月期第2四半期(累計)及び通期業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、本日開催の取締役会において、最近の業績の動向等を踏まえ、以下のとおり、平成26年4月4日に公表しました平成27年2月期第2四半期(累計)及び通期の業績予想を修正することとしましたので、お知らせいたします。

記

1. 平成27年2月期第2四半期(累計)及び通期業績予想の修正について

<平成27年2月期第2四半期(累計)業績予想数値(平成26年3月1日～平成26年8月31日)>

(連結業績)	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
前回発表予想(A)	百万円 86,900	百万円 2,300	百万円 2,300	百万円 500	円銭 20.59
今回修正予想(B)	86,900	1,400	1,400	△400	△16.47
増減額(B-A)	0	△900	△900	△900	
増減率(%)	0.0	△39.1	△39.1	—	
(ご参考)前期実績 (平成26年2月期)	63,749	3,767	3,980	2,090	96.04

(個別業績)	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
前回発表予想(A)	百万円 1,900	百万円 100	百万円 300	百万円 100	円銭 4.12
今回修正予想(B)	1,900	300	500	200	8.24
増減額(B-A)	0	200	200	100	
増減率(%)	0.0	200.0	66.7	100.0	

*個別業績の前期実績につきましては、第2四半期まで株式会社ポイントの業績であり、連続性に欠けるため、記載を省略させていただいております。

<平成 27 年 2 月期通期業績予想数値（平成 26 年 3 月 1 日～平成 27 年 2 月 28 日）>

（連結業績）	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円銭
前回発表予想（A）	185,900	6,000	6,000	1,600	65.89
今回修正予想（B）	185,900	5,100	5,100	700	28.83
増減額（B－A）	0	△900	△900	△900	
増減率（％）	0.0	△15.0	△15.0	△56.3	
（ご参考）前期実績 （平成 26 年 2 月期）	153,273	5,762	6,027	△4,731	△206.42

（個別業績）	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円銭
前回発表予想（A）	3,900	200	500	200	8.24
今回修正予想（B）	3,900	400	700	300	12.35
増減額（B－A）	0	200	200	100	
増減率（％）	0.0	100.0	40.0	50.0	

*個別業績の前期実績につきましては、第 2 四半期までの株式会社ポイントの業績と第 3 四半期以降の株式会社アダストリアホールディングスの合算であり、連続性に欠けるため、記載を省略させていただいております。

2. 修正の理由

当第 2 四半期（累計）連結業績は、売上高については、概ね前回発表通りとなる見込みです。一方で営業利益については、海外子会社で商品企画精度が不十分で値下げロスが増加したため、赤字額が想定以上となりました。国内では消費税増税の影響は想定範囲内であったものの、セール開始時期分散化や天候不順の影響もあってセール期の販売に苦戦し、売上総利益額を確保できなかったことに加え、不振ブランドの在庫消化を進めるために値下げロスが拡大したこと、出店にあたって人件費や減価償却費が増加したことが要因となって、国内小売各社の営業利益が予想を下回る見込みです。なお、海外子会社の営業赤字額が想定以上に拡大したため、当期純利益に与える影響が大きくなっております。

また、平成 25 年 9 月の持株会社化に伴い、個別業績は持株会社アダストリアホールディングスの業績となっております。持株会社のコストセーブにより個別営業利益は予想を上回る見込みです。

現時点においては第 3 四半期以降は前回発表通り推移するものと予想しておりますので、通期業績予想については連結・個別ともに第 2 四半期（累計）修正額と同額を修正させていただきます。

最後に、配当金額につきましては、一株当たり 75 円（中間 30 円・期末 45 円）の予想を据え置いております。

（注）上記業績予想につきましては、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

以上